

【エツチ潤沢】清楚系アイドルの淫乱ご奉仕

シナリオ…とち乙女

登場人物

・優香

「主人公」の幼なじみで、本来は内気
おしとやかで、清楚な美少女
きれいなロングヘア
清楚系で売り出し中のアイドル

・「主人公」

優香のマネージャー。

優香の年上の幼馴染みでお兄ちゃん的存在

トラック1 「優香は清楚系アイドル」

■誰もいない楽屋

優香 「ねえねえ」

主 「こら、仕事中は仕事中はもっと距離を持ってって言つたら
マネージャーって呼べって言えよ」

優香 「距離を持つて……、だつて幼馴染みじやない
なかなかマネージャーなんて呼べないよ」

主 「仕事とプライベートはわけろ」

優香 「…………うん、わかった。仕事とプライベートはわけるね、マネージャー」

優香 「ねえ、マネージャー。この後は歌の収録だけ……だよね？」

主 「ああ」

優香 「じゃあ、あの……、収録が終わつたら一緒に帰る上」

主 「アイドルが男性と帰るのはちよつと……」

優香 「だつて、家が同じ方向なんだよ？」

別々に帰る必要なんてないよ」

優香 「それには、マネージャーに送つてもらつたつていう形にすれば、
大丈夫かなつて思うの」

主 「じゃあ、他の子も呼びなさい」

優香 「え、他の子も！？」

主 「その方が自然だろ？」

優香 「それは……その、確かに自然だけど……」

優香 「で、でもね、私はマネージャーと」

主 「わがままは言わない」

優香 「……はーい、わかりましたよ」

主人公が優香の頭をポンポンする

優香 「……うん、もつとして？」

主 「甘えない」

優香 「甘えてなんかないよ。これぐらい……いいじゃない」

主 「しようがないな」

優香 「ふふ、ありがと。これだけで、歌うの頑張れる気がする」

主 「じゃあ、俺は別の現場に向かうから」

優香 「え、聴いててくれないの？」

主 「俺も仕事があるからな」

優香 「私のパートだけでも」

主 「しようがないな。そんな顔されると……」

優香 「お願い……」

主 「うん」

優香 「！ ありがと！」

主 「でもそういう言う」と聞いてはやれないぞ」

優香 「私、わがまま？ マネージャーには迷惑？」

主 「そういうわけじゃないけど」

優香 「だつて、私はマネージャーの」と……」

主 「今は仕事中だろ」

優香 「…………。そうだね。今は仕事中だったね」

優香 「（）めんなさい。私もちゃんと仕事するから。歌、聴いててね」

主 「ああ」

優香 「ふふ、約束だよ、マネージャー」

■ ライブ前 「ライブ直前、ドキドキ」奉仕

■ ライブ前の誰もいない部屋

優香 「ふう……」

主 「大丈夫か？」

優香 「うん。あと二時間でライブなんだね。やっぱ緊張するよ」

優香 「ライブは初めてじゃないのにね……。何回やつても緊張しちゃうの。でも、マネージャーが見てくれていると思うと、頑張れるんだよ」

主 「そうか」

優香 「だから、今日もちろんと見ててね？」

主 「ああ。もちろんだよ」

優香 「ふふ、ありがと」

主 「それにしても……」

優香 「見て。この衣装……どうかな？」

なんだか、いつもより透けてる気がするんだけど……」

主 「そう、だな……」

優香 「で、でもアイドルなんだから普通だよね？ 頑張らなくちゃ」

主 「ああ……」

優香

「それとも……マネージャーは嫌？」

私がこういう格好するの……？」

主「そんなことないよ」

優香

「嫌って言つてほしいのに……」

主「え？ なんか言つた？」

優香

「ううん、なんでもない。……もつ」

優香

「あ、あのね、もつとよく見て欲しいな。後ろとか、どう？」

優香

「スカート短くない？ 下着が見えそう……。ほら、マネージャー見て？」

優香

「もつと近くで見て……ねえ……」

主「ちよつと待て」

優香

「スカート持ち上げるから、確かめて……」

主「だ、ダメだよ」

優香

「なんかね、下着濡れてない？」

マネージャーとふたりきり、だからかな？」

優香

「なんだか、すゞくじんじんしちやつて……。私、変？」

主「変じや、ないけど……」

優香

「触つて、確かめて？」

主「ダメだつてば」

優香

「よく見て……ね？ お願い、マネージャーなんだから、ちゃんとアイドルの管理しなくちゃ……」

主 「つて言つても……」

優香

「こんなコト出来るの、マネージャーの前でだけだよ。マネージャーのお仕事なんだからね？」

主 「優香、ダメだつてば。俺だつて……我慢の限界が……」

優香

「我慢なんてしなくてもいいよ。だつて、これはお仕事だもん」

主 「そうは言つても……」

優香

「でもこんな衣装、マネージャー以外に見せたくないな」

主 「ちやんと見えないようになつてるから、心配するな」

優香

「そうだよね、だつて……今だけは特別だもん」

主 「え？」

優香

「ねえ、マネージャー、ブラジャーつけてないの、わかる？」

主 「つ、つけてないのか！？」

優香

「ん、ありのままの私を見て欲しくて……

恥ずかしいけど、マネージャーになら……」

優香が主人公に抱きつく

優香 「マネージャー……ねえ……」

主 「……、離れなさい」

優香 「私のおっぱい、触ってくれないの？」

主 「ダメだよ」

優香 「私じゃ、ダメなの……？」

主 「そういう問題じゃなくてな……」

優香 「もうライブまで二時間しかないんだよ……？」

リハーサルの後の汗かいたおっぱいじや……嫌？」

主 「う……」

優香 「あんっ、あ……気持ちいい……おっぱい気持ちいいよお。

ねえ、おっぱい、吸つて……？　はい、私のえっちなおっぱい……

いっぱい吸つていいよ……」

優香 「ふあ……っんん、乳首がちゅううってなって気持ち良いの、お、

でも、私だけ気持ち良くなっちゃ、ダメだよね……？」

「あのね、友達がね、男の人が気持ちいいところ、教えてくれたんだよ。

セックスについていっぱい勉強したの。

マネージャーの耳、舐めてあげる」「

優香 「ん……ちゅる……ちゅ……じゅるる……、

ふあ、気持ちいい？　……ちゅる……」

優香 「はっ、ちゅ……はっ、はっ、マネージャー」

主「ぐ……」

優香 「ん……、そ……うだつた……私、アイドルだからマネージャーに……ご奉仕しなくちやダメだよね……」

優香 「あのね……耳を舐める以外のことも……教えてもらつたんだよ……す、すぐ恥ずかしいけど、お口でおちんちん舐めるの……それでね、口の中に入れるんだつて。フェラ……チオだつて？マネージャー、してもいい……？」

主「い、いいけど……」

優香 「うん！ ジヤあもつと頑張るね！」

優香が主人公の性器を取り出す

優香 「あ……、これがマネージャーのおちんちん……。初めて見た……嬉しい、大きくなつてる……」

優香 「私……気持ち良くなつてもらえるように、頑張るからね？ちやんと見ててね、マネージャー♡」

優香 「ん……ちゅ……これが……おちんちんの味……ん……何かぬるとしたのが……出てきた……なんだかしょっぱいような……変な味……？んん、マネージャー、これつてなあに……？」

主「カウパーだよ……気持ちいいと出るんだ……」

優香 「本当に！？ マネージャー、気持ち良いいの？ ん……れろ……ちゅ……もつと……もつと……」

優香 「ねえ、精液は出ないの……？」

主 「せ、精液つて……」

優香 「だつて……男の人は射精するんでしょ？ 私じやまだ出ない……？」

主 「そ、そんなことはないけど……」

優香 「あ、こつちを舐めればいいんだね？」

えーっと……なんだっけ、玉……舐め？」

主 「誰にそんなこと教わったんだ！」

優香 「友達がね、漫画を見せてくれたの。それで私、一生懸命勉強したんだよ」

優香 「…………やつて、吸い付くように……ちゅう、マネージャー、
もつと足を開いて……ちゅ……難しいね……はむ。ちゅうう……、
こうかな？ 口の中で転がすように……ちゅるる……」

優香 「ん……おちんちんが上を向いてぐ……ちゅる……
ん……じゅるる……」

優香 「マネージャー声出していいんだよ……？ ちゅうう」

主 「そんなわけいくか」

優香 「気持ちいい声聞きたいのにい。

それとも……誰かに聞かれちゃうかな……？」

主 「つたく……」

優香 「ちゅ……ん……固く、大きくなつてく……すゞいよお……」

優香 「マネージャー、こんなにびくびく脈打つて……
もうすぐ射精するんだね……？ ジヤ、ジヤ、最後は……」

優香 「えつと、えつとね、フェラチオ……するからね？ 練習したんだよ。
その……バナナでね。おちんちんはそのぐらいの大きさだからって
……喉まで使うと大変だけど……男の人はそれが気持ちいいって……。
でもマネージャーのはバナナよりもっと大きくなつたね。
私の口に入るかな？」

優香 「はあ……、じやあ、行くよ？ ん……緊張するけど……頑張る……」

優香 「じゅる……じゅるる……ん、くるひい……じゅる……じゅ……
じゅるるる……」

優香 「ろろ（喉）のおう（奥）まれ……じゅじゅ……じゅるるる……」
優香 「ん、ん、ん、んん、うう、あう……つ」

主人公が射精する

優香 「んくっ！ ぐくんっ、はあ……」

優香 「全部飲めなかつた……。折角マネージャーが射精してくれたのに……。
でも……エッチな味だね……なんだか癖になつちやいそう……」

優香 「マネージャー、気持ちよかつた？」

主 「ああ」

優香

「よかつたあ。私上手く出来たんだね。

男の人にこんなことするの、初めてで……

マネージャー以外の男の人にこんなことするわけないし……」

優香

「マネージャーを射精させることが出来たから、

なんだかちよつぴり大人になれた気がする……。ふふ……」

主 「満足したか？」

優香

「やだ、もつとする……。本当はセックスしたいけど、ライブの前だから……。でも、まだ射精出来るよね……？」

優香

「それとも、誰か来ちゃうかなあ……」

主 「いや……」

優香

「アイドルがエッチなことしてるなんて、すごいよね……」

優香

「ねえ、もっと耳を舐めたら、その気になる……？」

優香

「ちゅ……ちゅるる……気持ちいい……？
おちんちん大きくしていいんだよ……」

優香

「マネージャーのためなら、いくらでも」奉仕するから……ね……？」

主 「それより、ブライジャーをつける」

優香

「ん……私のおっぱい、好きじゃないの……？」

主 「そういうわけじゃないけど……ちゃんとつけなさい。
俺以外の人が見たらまずいだろう」

優香

「わかった……。じゃあ、マネージャーがブラジャーつけて……？」

主 「ブラジャーの付け方なんてわからないよ」

優香

「ブラジャーの付け方、ちゃんと教えてあげる」

優香

「あのね、こうやっておっぱいをすくうようにつけて……腕を通すでしょ、それで後ろのホックをつけて？」

優香

「それで、こうやって胸の形を整えるの。ブラジャーの中に手を入れて……そう、そうすると、胸に谷間が出来るの……」

優香

「ふふ、よく出来ました」

主 「こんなコトして……」

優香

「マネージャーのも仕舞つてあげるね。ええと、こうやって……あ、大きくしちゃダメだよ……？ ちゅっ」

優香

「はい、出来た。ふふ、なんだかこれつて、お嫁さんがやるみたいだね」

優香

「ねえ、衣装汚れちゃったね……。」

「このままライブしたら、おまんこじんじんしちゃいそう」

優香

「でも……これつて、本当は駄目なこと……だよね……。」

「ファンのみんなの前にエツチな汁がついた衣装で出るつて……。裏切り行為に……なるのかな……」

優香

「本当は【みんなの優香】でいなくちゃいけないのに、汚れた姿でニコニコ笑つて歌うんだもん……。だけど、そのいけないつていう気持ちが、余計にドキドキさせるの。あ……つ、また、おまんこがドクン、つてなつちやつた……」

主 「ば、バカ！」

優香 「ライブ楽しみだね？」

主 「くつ……」

主人公に電話がかかってくる

優香 「仕事の電話？」

主 「ああ」

優香 「じゃあ、もう行っちゃうの？」

主 「別の現場もあるんだ、仕方ないだろ」

優香 「そうだけど……。私、寂しい……」

主人公が優香の頭をポンポンする

優香 「もう、いつもそれなんだから。いつまでも誤魔化されないからね？」

主 「ああ、ごめんな」

優香 「ねえ、今度は……」

主 「何？」

優香 「その……えっと……、ちや、ちゃんとセックス……してくれる？

『ご褒美欲しいな』

優香

主 「.....」

「ふふ、私絶対頑張るね。 いつてらっしゃい」

■ **トラック3 「水着でグラビア撮影」**

■ 海

優香 「はあ……やつとグラビア撮影、終わったね。長かったなあ」

優香 「うーん、海に入りたいぐらい、良い天気でよかつた……」

主 「ああ」

優香 「ね、この衣装、どう？ この前のライブと同じデザイナーさんの衣装
だけど……。もつとエッチな衣装だと思わない？」

優香 「やつぱり見えそうになっちゃうの……」

主 「え、似合つてると思うよ」

優香 「そうじやなくて……その気に、なる？」

主 「その気つて……こんな所で言わないの」

優香 「じゃあ、あの岩場の方に行こうよ。あっちなら誰も来ないから」

優香が主人公の手を取つて、岩場へ連れて行く

優香 「ほら、こっちの影に来れば……誰にも見えないから大丈夫だよ。
ふふ、大きな声出しても大丈夫」

主 「こんな所で何するつもりだ？」

優香 「あの……あのね、その……」

主 「どうした？」

優香

「私……この間の続きをしたいの。

ほら、この衣装、ライブの時とデザインがすごく似てるでしょ？
だから私、……撮影中にあの時のこと思い出しちゃって……。
もう、エッチな匂いがする……でしょ？

ねえ、続きしようよ」

優香

「この間の……エッチの続きを」

主 「この間の続きを……」

優香

「またブラジャーつけてないの。……下着もだよ。

誰かにバレないか、ドキドキしちゃつた♡

ライブの前の……あの時の続きを、させて？」

主 「それはダメだよ……」

優香

「どうして？ 私が幼馴染みだから？

子供の頃にお前とは結婚しないって言われて、
すぐくショックだつたんだんだよ……？」

主 「だつて、そうじゃないか」

優香

「もう、私は大人だよ？ 子供じゃない。

アイドルにだつてなれた。意識してくれない？

この前だつてちやんとマネージャーを気持ち良く出来たよね？
マネージャー、気持ち良さそうに射精したじゃない」

主 「でもな……」

優香

「もう、誤魔化してもダメだよ。マネージャー、私がエッチな衣装で、おちんちん固くしてるの知ってるんだから。

撮影の時は我慢してたけど……」

優香が服越しに主人公のものに触れる

優香

「ほら……固いよ……。私もね、マネージャーが見てると思うと、おまんこじんじんしちやうの。でも仕事中だから、エッチなお汁が中からこぼれないように他のこといっぱい考えて、我慢してたんだよ。偉いでしょ？」

主 「そんなこと言われても……」

優香

「い、いんなこと言うの、本当は恥ずかしい」とだつてわかつてる……。もしかしたら、マネージャーに淫乱つて思われるかもつて……」

優香

「でもね、こうしないと、マネージャーが他の女人に取られちやう気がして。私、マネージャーのこと大好きだもん」

優香

「ね、私じやダメかな……？」

主 「ダメってわけじや……」

優香

「私、マネージャーのためなら、もつとエッチなポーズ出来るよ

優香

「こんな風にお尻を向けたり……足を広げたり……、ちよつとだけおまんこ見せるように、ほら……見て……」

主 「ゆ、優香……」

優香

「ね、マネージャーのためだけに考えたんだよ。

私のこと、もつとよく見て……。ラジヤーも下着も、つけてないんだよ……あん、濡れできちやつた。恥ずかしい」

優香

「してくれないなら、自分でおまんこいじつちやうの。見て、オナニーする私を……」

優香

「見て、見てえ。このおまんこでこの前みたいに、マネージャーを気持ちよくしてあげるよ……。私もう我慢出来ない、マネージャーとセックスしたいの」

主 「けどゴムないし……」

優香

「私ね、いつでもマネージャーとセックス出来るように、ちゃんとピル飲んでるの」

主 「お前……」

優香

「偉いでしょ？ 赤ちゃん出来ないから、いっぱい中だししてね♡」

優香

「まずは耳だね……。マネージャーはどつちの耳が敏感なの？」

主 「左、かな……」

優香

「左だね。ん……」

優香

「ちゅ……ちゅる……、気持ちいい……？」

またマネージャーが気持ち良くなれるよう、勉強したんだよ」

主 「なんで……？」

優香

「は、恥ずかしいけど、ね、アダルトビデオ見て……。友達に言われるだけじゃわからないから……」

優香

「す、すこかつたんだよ。私、あんなこと出来てなくて、男の人も女人の人もものすごくエッチな声出すの。この前はマネージャー、あんな声出さなかつたし、気持ちよく出来なかつたよね？」

主 「いや、あれはアダルトビデオだから……」

優香

「？ ビデオだから？ ジやあ、あれは演技なの？ けど、気持ちよさそだつたよ？」

主 「そういうもんなの！」

優香

「えええ、アダルトビデオってすごくいんだねえ。でも、私マネージャーとあいう風にしたいの」

主 「まつたく、悪影響を受けて」

優香

「悪影響なんかじゃないよ。ちゃんとやり方わかつたもん……」

主 「どうだか」

優香

「本当だよ。でもそんなに言うなら、今度はマネージャーに教えて欲しい。本当のセックス……もうたまらないの。我慢出来ないの」

主 「優香、お前はアイドルなんだぞ？」

優香

「アイドルなんて関係ない。私、マネージャーとしたい。ほら、胸触つて？ こんなにドキドキしてるの……」

優香 「わからない？ じゃあ、衣装の中に手を入れて、おっぱい触って……？」

主 「そんなこと……」

優香 「あんっ。……柔らかい……？ ねえ、乳首触って。

立ってるのわかる……？ くにくにして……はあんっ。
この前みたいにちゅつちゅしていいんだよ？
だつてこのおっぱい、マネージャーのだもん」

優香 「マネージャーも気持ちよくしてあげるね。

耳 「耳……左の方が敏感なんだよね？」

優香 「ちゅ……、マネージャーも、声出していいんだよ……？
あのビデオみたいに、私の名前、呼んで欲しい……」

主 「優香……優香！」

優香 「ん、嬉しい……もつと、エッチな声出して」

優香 「マネージャー、キスしよう？」

優香 「んん……ちゅう……はあ……、

マネージャーとキスしちゃつたあ。嬉しい。私のファーストキスだよ……。
最初のキスは、マネージャーに貰つてもらうつて
ずっと前から決めてたの」

優香 「もつと……ちゅる……ん……ちゅう……はあ……」

優香 「マネージャー、気持ち良さそうな顔してる。

じやあ、この前みたいに、マネージャーのおちんちん、
舐めてあげるね……？」

優香 「きもひいい（気持ちいい）……ちゅぱ……ちゅる……れろ……ふふ、ちゃんとぬるぬるしてきた……もつと固くして……？」

主 「う……うう」

優香 「あ、マネージャー、声出た。ふふ、聞きたかったんだよ……。もつとも一つと声出してね」

優香 「それで……射精はまだしちゃダメだよ……？ だつて、これ、私のおまんこに入れるから……」

主 「本当にするのか？」

優香 「して……。私の初めて、マネージャーが貰つて」

主 「衣装着た今まで？」

優香 「うん、衣装きたままの方が興奮しちゃう……。なんだかいけないことしてるみたいで、ドキドキするの、マネージャーの精液だらけになつちやう」

優香 「マネージャーも興奮してるくせに。もう、マネージャーつてば。処女は嫌？ 処女まんこ、マネージャーにあげちやう」

主 「そ、そうか……」

優香 「私、頑張るから。

アダルトビデオみたいなのは出来ないかもしれないけど、マネージャー、横になつて。今ならぬるぬるで自分で入れられそう。はしたない私がマネージャーのおちんちん入れるの、ちゃんと見ててね」

優香

「あん、入らない。こんなにぬるぬるしてるのでい。
あともうちょっと……。んあ……、入らないよお。
あん、ああん。おちんちん入らないよお
欲しいの、おちんちん欲しいのぉ」

主 「俺が入れるか」

優香

「ダメ、私が入れるから、待つてて」

優香

「あっ、もう少しで入りそう。ここ……この中に……」

優香

「あ、あ、ここ、入つてくるう……ん、あ、痛い」

主 「無理するな」

優香

「ううん、頑張る。ん……つ、もうちょっと……あ、ああ！」

優香

「痛いけど、はいったあ。

でも……思つたより痛くなかったね。……」

これが、セックス……」

主 「大丈夫か？」

優香

「はんつ、私のおまんこ、ぬるぬるしたのが出てくるから、大丈夫……
マネージャーのと混ざつて、ぐちゅぐちゅしてるので」

優香

「それより、マネージャーは気持ちいい？ 私の処女まんこ、
気持ちいい？」

主 「ああ、気持ちいいよ」

優香

「よかつた……。じゃあ、もっと気持ちよくするね」

優香 「ん、ん、こう？ ん、ん、んん、ちゃんと出来る？」

優香 「きやあつ！」

優香 「あ、あ、いやあ、そんな強くしないでえ。おまんこ変になつちやうう」

優香 「やあ、誰か来たあ」

主 「声出したら、見られちやうよ？」

優香 「ん、声でちやう。見られちやうよお。んん、ん……！」

優香 「ああつ、マネージヤーつ、お尻からなんて、恥ずかしいつ、あ、あ、強い、やんつ、やらしい声が出ちやうう」

主 「アダルトビデオと同じだな」

優香 「んんつ、やあつ、ビデオと、同じい、すごいの、やあ、気持ちいいよお」
エツチな私、見られちやうう」

主 「これなら淫乱になれるな」

優香 「や、マネージヤー、えつちな」と、あんつ、言わないでえ」

優香 「あつ、なんか変なの、あ、あ、変なの来ちやうよお、や、マネージヤー、助けてえ」

主 「いくぞ」

優香 「あああああんっ！！」

優香 「はあっ、はあっ、はあっ、これが本当のセックス……。す、いよお……」

主 「初めてなのに、気持ち良かったのか？」

優香 「うん。初めてだけど、マネージャーのおちんちんが中に入ってると思うと、頭がぼううつとして、

そしたらおまんこがすごく熱くなっちゃったの……。今も、お腹の中が温かいよ……」

優香 「マネージャー。私の中のおちんちん、気持ちいい……？」

主 「ああ」

優香 「あんっ、もう抜いちやうの……？ やだやだあ」

優香 「ねえ、今度はマネージャーの顔見てしたいの。エッチな顔見せて。私のおまんこで気持ちよくなってる顔見せて」

優香 「マネージャーの精液もつと欲しいの。

中でびゅくびゅく出して、私の中いっぱいにして？」

優香 「あ、また誰かきたあ。見られちやう、見られちやうよう」

優香 「んんっ、ん、あんっ……、あああああっ、んんん……」

優香 「ふああん」

優香 「マネージャーのおちんちんもびゅくびゅくしてる。見られたら感じちやうの？ えっち♡」

主 「抜くぞ」

優香 「やん」

優香 「見られてると思うと、興奮しちやつた……」

優香 「あ、もう日が暮れてきた……。もつとマネージャーとしたかったのに」

主 「しばらく隠れていよう」

優香 「うん、人がいなくなるまで待つてよう。私のこと抱きしめてて」

主人公、優香の頭をポンポンする

優香 「んもう、いつもそれで誤魔化すんだから……」

主 「またしてやるから、今日はもう終わりにしような」

優香 「うん。今日はこれでいいよ……でも」

主 「ん？」

優香 「これで私達、恋人同士だよね？」

トラック4 「頑張つてHな営業」

■ ホテル

主人公がクローゼットに隠れる

優香 「じゃあ、マネージャー、ここに隠れてて。

もし……襲われそうになつたら、助けてね。

でも私、頑張るから……後で『褒美ちようだいね』

優香 「あ、来た。じゃあ、マネージャーよろしくね」

優香 「はーい、どうぞ、入ってきてください」

優香 「プロデューサーさん、今日は無理を聞いてもらつて
ありがとうございました」

優香 「その、ゆつくりプロデューサーさんとお話をしたくて……、
ホテルになんかに呼び出してすみません」

プロデューサー 「いやいや、いいよ、優香ちゃん」

優香 「あの、私、プロデューサーさんにお願いがあるんです」

プロデューサー 「なんだい？」

優香 「今度の特別番組、ミュージック・ショーに出させてもらえませんか？」

プロデューサー 「んん、君はまだ新人だからねえ」

優香

「私がまだ新人で、不相応なのはわかってるんです。

でも、もしミュージック・ショーに出られたら、

認知度もアップするかなって思つてるんです」

優香

「プロデューサーさんには迷惑かけませんから、
どうか考えてもらえませんか？」

プロデューサー「ただで、というわけはねえ」

優香「そうですよね、ただでなんて、私もそんなおこがましいことは

考えてません」

優香「だ、だから……」

プロデューサー「だから？」

優香「こんな恥ずかしいこと、言わせないでください……」

プロデューサー「さすが清楚系アイドルだね。でも言つてくれないと」

優香「あ、あの、ご奉仕させてくださいませんか……？」

私、清楚系なんて言われてるけど、本当はエッチな子なんです……」

プロデューサー「そうかそうか、じゃあ手始めに、脱いでもらおうか」

優香「え、服を脱ぐんですか……？」

プロデューサー「出来ないのかい？」

優香「い、いえ、やります！……ちゃんと見てくださいね……？」

優香「どう、ですか、私の身体……。見て……」

優香

プロデューサー 「うん、良い身体してるねえ」

優香 「あ、あの……」奉仕、してもいいですか……？」

プロデューサー 「いいよ、来なさい」

優香 「じゃあ、最初はお耳を……」

優香 「気持ちいいですか……？」

あん、おっぱい触つちやダメ。気持ち良くなつちやうう」

プロデューサー 「うんうん、いいねえ。

じゃあ、もうちょっと頑張つてもうおうか」「

優香 「はい」

優香 「じゃあ、ズボンを……」

優香 「はあ……。プロデューサーさんのおちんちん、大きいですね……」

優香 「もう勃起してる……。じゃあ、もっと気持ち良くなつちやうう」

優香 「んん……れろ……はあ……しょっぱい……ん……ちゅる……」

プロデューサー 「よしよし、良い子だね。じゃあ今度は咥えなさい」

優香 「はい……。おちんちんを口の中に入れますね。

私のお口で気持ちよくなつてください……」

優香 「ふ……ん……きもひいいれふら（気持ちいいですか）……？」

プロデューサー 「ああ、いいよ、いいよ……」

優香 「だひでくらはい（出してください……）…………ちゅる…………れんふろみらふから（全部飲みますから）…………」

プロデューサー 「ああ、もう出る！」

優香 「んんっ、うぐ、ごくん……。はあ…………美味しかったです…………」

プロデューサー 「さあ、本番とい、こうか」

優香 「あ、入れるのはダメです……。私は処女なので、許してください…………」

プロデューサー 「しようがないなあ。じやあ、すまで」

優香 「すまた？」

プロデューサー 「そんなことも知らないなんて、ウブだねえ」

優香 「ウブなんて、そんな……」

プロデューサー 「ほら、足を閉じて。ふとももでこするんだ」

優香 「太ももで？ こうですか？」

プロデューサー 「うううう、気持ちイイよ……」

優香 「あ、あ、気持ちいい」

プロデューサー 「ああ、私も気持ちいいよ。うう」

優香

「プロデューサーさん、私のご奉仕、どうでしたか……？
ミュージック・ショーのこと……？」

プロデューサー 「ああ、考えておこう」

優香 「ありがとうございます！ 嬉しいです！」

プロデューサー 「じゃあね、また頼むよ」

優香 「はい、また……」

優香 「ふう……」

クローゼットから主人公が出てくる

優香 「マネージャー！ 気持ち悪かつたよ……！」

主 「そうか？ 結構頑張つてたじやないか」

優香 「だつてマネージャーが見ててくれたから、頑張つたの……。
マネージャーに迷惑かけたくないくて……。
ミュージック・ショーに出られたら、マネージャーの功績になるもの」

主 「そうか、よく頑張つたな」

主人公が頭をポンポンする

優香 「それだけ……？」

主 「え？」

優香

優香

「マネージャー、私にご褒美……くれないの？
もう身体がうずうずするの。マネージャーが欲しいの……」

主 「そうだな……、じゃあシャワーを浴びようか」

優香 「うん！ シャワーで私の身体、洗つてね」

■シャワールーム

優香

「あ、ああん、マネージャーの手、石けんでぬるぬるして
気持ちいいよお……。マネージャー、私のおまんこも洗つてえ」

優香

「おまんこの中も、洗つて……？」

「ぬるぬるして、ちゅくちゅくするの……。エツチな音……。
あん、お尻も……？ やだ、マネージャーの変態……」

優香

「ふあ……あんつ、気持ちいい……はあつ、マネージャー、
おっぱい揉み揉みしながら、私のおまんこに大きいおちんちん
入れて……。ずっと欲しかったの……。
マネージャーにこつそり見られて、興奮したけど……」

優香

「でも、本当はマネージャーにだけして欲しいんだよお？」

主 「その前にすまたをしようか」

優香

「え？ すまた？ どうして？」

主 「優香を綺麗にしてやりたいからな」

優香

「あんつ、石けんなんかつけたら、気持ち良すぎちゃうよ、だめ……」

主 「そのままでいいのか？」

優香 「ううん、マネージャーの感触で、

あの気持ち悪いプロデューサーの感触消して欲しい……」

優香 「あ、あ、気持ちいいよお。さつきのはすごく気持ち悪かったのに、マネージャーのおちんちんこすれてにゅるにゅるにして、

おまんこじんじんしちやうの……」

優香 「やだ、泡が立つてる……こんなの、恥ずかしいよお」

優香 「あんっ、シャワーかけないで！ あとちょっとでイケそうなのに、物足りないよお……ねえ、もつと強くして、シャワービジや足りない……」

優香 「やだやだ、私、マネージャーのおちんちんでイきたい、イきたいよお……入れて、入れてってばあ……！」

主 「仕方ないな」

優香 「だつて、私本当ははしたない子だもん……つ。

マネージャーにだけ、発情しちやうの……」

優香 「ああああんっ！！」

主 「入れただけでイつたのか？」

優香 「はあ、はあ、いやつた……。マネージャーのおちんちん、

好きい、はあ……」

主 「ほら、鏡を見てござらん」

優香 「え、鏡？」

優香 「やあん、足広げないでえ。マネージャーのおちんちんが入った、恥ずかしいおまんこが見えるの。恥ずかしいよお」

優香 「はあ、はあ、おまんこってこんな恥ずかしい形してるの……？」

主 「そうだよ、やらしいだろ」

優香 「マネージャーにこんないやらしいモノ見られてたの？ やだやだ、恥ずかしくて死にそうだよお」

主 「俺のおちんちんの味はどうだ？ このエロまんこは」

優香 「私のエロまんこ、マネージャーのおちんちん美味しいって言つてる……、ほら、ぱくぱくして、何度もイッちやう……」

優香 「ねえ、キスして、マネージャー……」

優香 「ん…………ちゅ、ちゅる……好き、好きい、マネージャー、好きだよお」

優香 「中、中にぴゅーて出してえ」

主 「俺も好きだよ」

優香 「あああああん。出てる、いっぱい出てるよお。びくんびくんしてるので」

主 「なんだ、またイッたのか？」

優香 「ん……マネージャーに好きって言われると、頭真っ白になっちゃう……ちゅる……」

主 「好きだよ」

優香

「や、もう好きだつて言わないで。おかしくなつちやう。
マネージャー大好きい……」

主 「好きだ、好きだよ、優香。優香は言つてくれるじやないか」

優香 「はあんつ、マネージャー……ちゅる……ちゅ
はあ……はあ……だつて、私が言うのはいいの、

マネージャーが大好きだから……。でもね、マネージャーは
優香のこと好きつて言つちやダメなの。私、発情しちやうから……。
事務所でも、外でも、どこででも発情しちやう……」

優香 「それでね、優香のエロまんこがぐちゅつてなつて、濡れちやうの。

でね、たくさんお汁が出てきて、こぼれちやうの……」

主 「大好きだよ、優香」

優香 「やあん、マネージャーの意地悪う……。

そしたら、ライブも出来なくなつちやうよお……」

主 「そうか、じやあ、今だけだな」

優香 「うん……。マネージャーとエッチする時だけ、私のこと好きつて

言つてね……？ そしたら、もつと営業がんばるから……。
もうマネージャー以外に発情なんてしないの……」

主 「頑張つたな、優香」

優香 「うん、マネージャーのために、もつと営業頑張るね……」

優香 「だから……ご褒美ちようだいね。

このおちんちんで、優香のエロまんこいじめてね……？」

優香

■ トラック5 「あなたのためだけの優香」

■ 芸能事務所

優香 「え、プロデューサーさん、私のヌード写真集を！？」

プロデューサー 「そうだ、どうだい、やつてみては」

優香 「私なんかに出来ることじや……」

主 「そうです、この子はまだ新人で」

優香 「マネージャーの言うとおりです。

私はまだまだ新人で、イメージが悪くなるんじや」

プロデューサー 「そうかな？ この前の営業も……」

優香 「あ、あれはミュージック・ショリーに出るためで、それとこれとは……」

主 「俺は絶対反対です」

優香 「マネージャー……。私も絶対嫌です！」

とにかく、この話はなかつたことにしてくださいー！」

■ 主人公の部屋

優香 「マネージャーの部屋、こんななんだ」

主 「来るのは初めてだつたか」

優香 「うん、マネージャーが実家出でく時は寂しかったな。
でも近くでよかつた」

主 「……ならふたりきりだ」

優香 「うん、ここならふたりきりだね。その……ふふ」

優香 「それにもあのプロデューサー……」

私にヌード写真集出せだなんて……マネージャーが
反対してくれなかつたら、私、泣いちやつたかもしれない……
だつて、私の裸を見ていいのは、マネージャーだけだもん」

主 「大丈夫、優香は俺が守るよ」

優香 「マネージャー……。ずっとずっと、私のこと守つてね。
だつて、私はあなたのためだけの優香なんだから」

優香 「写真だつて、マネージャーにしか見て欲しくない……。
アイドルがこんな事言つちやいけないつてわかつてるけど……。
マネージャーが見てくれると思うから、頑張れるの」

優香 「ねえ、マネージャー、こつち来て……」

優香 「ね、私の写真撮つて。はい、ピース」

優香 「この写真は、マネージャーのためだけの写真だよ。もつと写真撮ろうよ」

優香 「あー、今の変な顔になつちやつた。消して。ふふふ」

優香 「やん、今スカートの中撮つたでしょ。もう……」

優香 「でも……マネージャーになら、いいよ?」

優香 「マネージャーになら、エッチな写真、いっぱい撮ってほしいな……」

優香 「ね、マネージャー、耳が敏感だから、エッチな気分になってきたでしょ……？」

優香 「ブラジャー取って、乳首が透けてる写真……撮つてみようよ……」

優香 「やだ、乳首立つてるう」

優香 「あ、次はマネージャーのシャツ着てる写真も撮ろう？」

今度は……パンツもいらないよね……？
やだ、パンツから糸ひいてる……」

優香 「ん……こんなに濡れてる……あ、や、そんなど撮らないで……おまんこ写真なんてダメえ」

優香 「ふふ、やだ、もう……マネージャー……」

優香 「ん……、マネージャー……、あれ……これ、動画モード……？」

もうマネージャー、やだ……エッチなんだから」

優香 「マネージャー、キスして……」

優香 「ん……ちゅる……じゅる、好きい……」

主人公が優香の胸を揉む

優香 「マネージャー……私のおっぱい、好きなの……？」

じやあ、おっぱいでシてあげる……おっぱいでシコシコして……」

優香 「や、先っぽが口に当たるの……。ちゅうううう……」

優香 「きやつ、出ちやつたね……。

おっぱいがマネージャーの精液で濡れちゃつた……。
なんだかすごくいやらしいね……」

優香 「あ、まだ撮つてるの……？」

優香 「ん、何か来ちゃう……身体が熱いの……。変な感じ……」

主 「このまましようか」

優香 「え、撮りながらするの……やんつ、あ、おまんこ舐めないで、
何も考えられなくなつちやう……」

主 「優香のおまんこ、美味しいよ」

優香 「やだあ。マネージャーの舌が入つて来て、れろれろしてりゅう……。
私のおまんこ美味しい？」

主 「ああ。もっと舐めようか」

優香 「やだやだ、それよりおちんちん……！ 中も気持ちよくして！」

主 「優香はすぐにおちんちん欲しがるな」

優香 「だつて、マネージャーのおちんちん、
すぐに欲しくなつちやうんだもん。中がうずうずするの」

主 「じやあ、指を入れてみようか」

優香 「指？ 指じや物足りない……ねえ、おちんちんがいいよお」

優香 「指だけ?」

主 「3本簡単に入ったな。ゆるゆるだ」

優香 「だつてえ、マネージャーの欲しいから、蕩けてきちゃうんだもん。マネージャーが好きすぎて溶けちゃうう」

優香 「指だけじゃ足りないよお、早く、早くう」

主 「じゃあ、おねだりしてござらん?」

優香 「カメラの前でおねだりしたら、入れてくれる……?」

主 「ああ」

優香 「あ、あの、こんな恥ずかしいエロまんこですが、マネージャーのおつきいおちんちん入れてください。中にいっぱい精子出して、優香の子宮をイかせてください♡」

主 「よく出来たな」

優香 「ね、ちゃんと出来たでしょ。早く、早くう」

優香 「はあんつ！ 気持ちいいよ、撮られてるの、気持ちいいよお」

優香 「あ、あ、なんか漏れちゃうの、だめ、見ないでえ」

主 「漏れる?」

優香 「うん。なんか変なの。やだ、やだやだ、も、もうだめえ……！」

優香

「やあ、何これえ。おしつこ出ちやつたの？」

主 「優香が淫乱だから、潮を吹いたんだよ」

優香

「しお……？ おしつこじやないの？ 私、そんなに淫乱なの……？」

主 「そんなどこも可愛いけどね」

優香

「やだ、こんなの、可愛いなんかないよ。

……私の知らないこと、まだまだいっぱいあるんだね……。

ねえ、マネージャーなら教えてくれるよね……？

私、もっとエッチな事知りたいの。エッチになりたいの……」

主 「ああ」

優香

「マネージャーのおちんちん、まだ中で大きいままだよ……。

また出して、私をおかしくしてえ……」

主 「ああ」

優香

「はつ、はつ、マネージャー、チューして……」

優香

「ん、ん、じゅるる……ちゅ……ちゅるるる……、

おまんこ壊れちゃう……、壊れて、マネージャーの形になっちゃうの。
マネージャーのおちんちんしか入らないの……」

主 「俺だけのまんこか」

優香

「そうだよ……つ、マネージャーの形のおまんこが、
マネージャーのおちんちんちゅつちゅするの……」

主 「そうか。じゃあ、期待に応えないとな」

優香 「あ、あ、あああああ！！」

繫がつたままベッドに横になつているふたり

優香 「マネージャーのエツチ……私の中でもまた大きくしてゐる……にゆるにゆるして気持ちいい……」

主 「優香がエツチだからだよ」

優香 「私がエツチなのは、マネージャーの前でだけだよ」

主 「さつきの動画見てみようか」

優香 「え、さつきの全部撮つてたの？ 最後の方とか覚えてないよ……もう……」

主 「いいだろ？」

優香 「だ、ダメ！ 恥ずかしいから見ないよ！」

主 「うん、優香が潮を吹くところも、いくところも全部だよ」

優香 「な、なんだかアダルトビデオみたい……。マネージャーしか、見ちゃダメだよ……？ マネージャーのためだけの優香なんだから……」

主 「再生してみようか」

優香 「やだやだ、恥ずかしいよ……」で見ないで……」

主 「見ながらしたら、きっと興奮するよ」

優香 「見ながらするなんて……マネージャー、意地悪しないで……」

優香 「あ、や、見ないで、こんな見られないよ……！」

主 「興奮するだろ？」

優香 「やだ、私、すごいエッチなこと言つてる。こんなエッチな格好して、恥ずかしいよお。見ないで、マネージャー、見ないでつてば……」

優香 「あ、あ、マネージャー、大きくしないで、締め付けちやうのぉ……もう、私だつて、やられてばっかりじやないんだよ……耳、敏感だよね……？」

優香 「ちゅ……ちゅるる……じゅ……、気持ちいい……？」

私のおまんこの中と、耳の中、どつちが気持ちいい……？」

優香 「きやんっ！！」

優香 「奥、奥気持ちいいの……！」

マネージャーのおちんちん、奥に当たつて気持ちいいよお」

優香 「ちゅーして、もつとちゅーして、おちんちんおつきくして……！」

優香 「じゅる……ちゅるる……、はあ……、マネージャー、マネージャー、好きい！ もつと、もつとおちんちんちようだい！」

おまんこ壊れちゃうぐらいしてえ！」

主 「優香、最高だぞ……」

優香 「ひぐう、あんっ、あんっ、おちんちんのおつきいところで、（）り（）りしりゆるのぉ、すごい、すごいよお……！」

主 「自分でおっぱいじるのか？」

優香 「うんっ、自分でおっぱい揉んじやうの、乳首をクニクニすると、おまんこがきゅつておちんちん締め付けるのよ」

主 「何回イつた？」

優香 「わかんない！ 何回イつたかわかんないよお！」

優香 「だつて、だつて私エッチではしたない子だもんつ。ひやうつ、しゅごい、しゅごいのよ」

優香 「アイドルなのにいはしたない子でごめんなさいい」

優香 「アイドルおまんこ、気持ちいい？」

アイドルなのに、マネージャーだけのおまんこなお」

主 「くつ、いくぞ！」

優香 「ああっ、マネージャーの精液出てる、出てるよお！」、

びゅーつていっぱい出てるのよ、中だしして、優香妊娠しちやうう全部ちようだい、私の子宮をイかせてえ…………！」

優香 「はあ……つ、はあ……つ、マネージャー、好きい、

私、マネージャーのためだけのアイドルだからねえ、大好き……」

優香 「中出し嬉しい。ねえ、ピル飲んでないつて言つたら、怒る……？」

■ トラック6 「あなたに変えられたい」

■ 芸能事務所

ファンレターが入った箱を置く

優香 「マネージャー、これ、ファンレター?」

主 「ああ」

優香 「（）で読んでもいい?」

主 「いいよ」

優香 「どれどれ……」

優香 「僕は清楚な優香ちゃんが大好きでしたが、

最近のちょっとぴり色っぽい優香ちゃんもすっごく好きです、だつて

優香 「えっと、こつちは……優香ちゃん、最近可愛いっていうより、美人になつた気がします。

でも、どつちの優香ちゃんも大好きです、つて、へえ……」

主 「へえ、色っぽい、か……」

優香 「最近こういうファンレター多いね。

私も大人っぽくなつたつてことかな?」

主 「恋人が出来たせいだろ」

優香 「それって……、マネージャーっていう恋人が出来て、

女らしくなつたつてこと?」

主 「そう、ベツドの中の優香はすごいからな」

優香 「もう、そういう」と言わないで、マネージャー。

その、ベツドの中でのことは……マネージャーのせいなんだからねつ」

主 「でも、確かにグラビア系アイドルのファンも多くなつたな」

優香 「今まで清楚系アイドルって言われてたけど……、グラビア系のファンの人も多くなつたよね。

ちょ、ちょっと恥ずかしいな……」

優香 「グラビア撮影の機会も増えたし……

ヌードじやない写真集も出たし……」

優香 「今、のままなら、もう『営業』なんてしなくてもいいかも」

主 「そうだな。俺も嫌だ」

優香 「マネージャー、嫉妬してくれるんだ。ふふ、嬉しい」

主 「そりや優香は俺の恋人だからな」

優香 「うん、私はマネージャーの恋人……。

でも……いつかは私をちゃんとお嫁さんにしてね？ マネージャー」

END